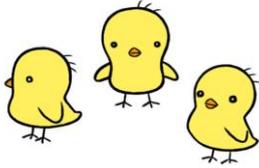


ひよこだよ



東京都立大塚ろう学校
乳幼児教育相談
令和元年9月 No5

長いお休みから学校が始まり1週間。みなさんの笑顔にまた出会えてひと安心しています。これから12月に向けて、親子で楽しい活動をたくさんしましょうね。秋は0歳児さんから参加できる運動会や1,2歳児さん参加の遠足など、楽しい行事がたくさんあります。体調に気をつけて、みんなで参加しましょう。



お休みの間、皆さんはどんな毎日をご過ごしていましたか？学校がお休みに入ると先生もお休みになるのですか？とよく聞かれることがあるのですが、子供たちがいない夏休みも学校はあります。研修会に参加したり、教材作成したり、新規の相談を受けたりしていました。その中で印象的だったのは板橋区の保健師研修でお話をさせていただいたことです。東京都では今年度から新生児聴覚検査費用の一部助成が始まりました。対象は2019年4月1日以降に生まれた赤ちゃんです。上限3000円まで助成されますので自己負担金が0円というわけにはいきませんがずいぶん前進しました。ひよこ組にいらしている保護者の方をご存知ですが、難聴児は早期に支援を受けることが大切です。しかし新生児聴覚検査で再検査（リファー）と言われて精密検査までの間は、ほとんどの病院で具体的な支援がなく、「何をしたらいいのか」「聞こえないってどういうことなのか」「言葉を覚えることができるのか」「かわいそう」など、御両親はショックを受けて混乱してしまいます。インターネットで検索しても不安だけが大きくなったというお話もよく聞きます。赤ちゃんを産んだほとんどのお母さまは新生児訪問を受け、地区の保健師さんに会います。そこで新生児訪問を行っている保健師さんに乳幼児教育相談のこと、ろう学校のことを知ってもらおうとお話してきました。たくさんの保健師さんにお話を聞いていただき、再検査と言われた後すぐに乳幼児教育相談ひよこぐみで聞こえについての相談できることを広げていく一歩になったと思います。

8月には大塚ろう学校のホームページの乳幼児教育相談のページがとてかわいくなりました。保健師さんも見ていただいているようですが、保護者の皆さまも是非また見ていただきたいと思います。

ボタン電池に気を付けて

ボタン電池は時計、おもちゃなどにも使いますが一番身近な補聴器で使っています。0歳から2歳児さんのお子さんは補聴器を自分で外したり、イヤモールドやフック、チューブなどをばらばらにしたりする時期です。まだまだ補聴器をおもちゃのように考えているのかもしれませんが、小さいものをなめたり口に入れたりする時期でもあります。



ボタン電池は食道で止まった場合は放電の影響で短時間で潰瘍ができて穴があくなど重症化するおそれがあり、大変危険です。また、胃で止まってしまった場合は 胃液で電池の腐食がすぐに始まり胃壁に損傷をあたえてしまう恐れがあるそうです。

飲み込んだかなと思ったときはすぐに病院に連絡して指示に従ってください。おじいさんおばあさんに預ける時も補聴器の電池のことをお話しするのを忘れないようにしてください。



あせを かいたら…

まだまだ毎日暑い日が続きます。補聴器は湿気に弱いです。汗をかいたら乾いた布でふきましょう。汗カバーを付けている人はこまめに取り換えてください。湿ったカバーをつけっぱなしにしていると補聴器が湿ってしまいます。

また、補聴器を外したら電池を入れる部分のふたを開けて中をかわかしましょう。電池と中の金属の部分がさびることがよくあります。夜寝るときは補聴器入れに乾燥剤を入れておきましょう。補聴器用乾燥剤を使いますが（お菓子の袋に入っている乾燥剤は使いません）その時に電池は一緒に入れないようにしましょう。電池の消耗が早くなってしまいます。

